

## 第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ 概要書

ワークショップ名	プライマリ・ケア診療の向上支援
----------	-----------------

開催の目的	本ワークショップの目的は、診療所や小規模医療機関におけるプライマリ・ケア診療を向上させるための支援システムはどのようなものであるべきかについて議論し、提言をまとめることにあります。
対象	■診療所医師      ■病院勤務医      ■初期研修医      ■後期研修医 ■歯科医師      ■薬剤師      ■看護師      ■プライマリ・ケアに関する研究者
定員	定員：                    48名 ※機の配置は全て島組（6人/1島）
講師名	司会            松村 真司    （松村医院） ファシリテーター    尾藤 誠司    （独立行政法人国立病院機構東京医療センター） 講師            東 尚弘      （東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学） ファシリテーター    山田 康介    （医療法人北海道家庭医療学センター 更別村国民健康保険診療所）
概要	<p>プライマリ・ケア診療は不安の連続です。特に、診療所のような小さな施設では「自分のところは大丈夫だろうか？もしかするといつのまにかマイチな医療機関になっているのでは？」という恐れが常につきまといます。診療内容だけでなく、安全確保、スタッフ教育、…。診療所運営においてやるべきことはたくさんあり、それら常に向上させて行くのは、自分たちの力だけではホントに大変です。そこで、日本プライマリ・ケア連合学会では、会員の施設に対して、プライマリ・ケア診療が、無理なく自然と向上していけるような、支援プログラムの開発にむけた検討を開始しました。</p> <p>本ワークショップでは、プライマリ・ケアに関わる施設、とくに診療所において「無理なく、診療内容が向上していくには」何が必要なのか、どのような支援システムがあればよいか、私たち自身で考えてみたいと思っています。</p> <p>まずはじめに、診療内容の評価に関する基礎知識について学び、そしてプライマリ・ケア診療向上支援に関するこれまでの動向、特に内外の試みについて、いくつかご紹介したいと思います。その後、参加者とともに、私たちにとってどのような支援プログラムが望ましいか、その実行には何が必要なのか議論し、提言をまとめたいと思います。</p>